東洋文庫 490

八代集 4

奥村恒哉校注

平凡社

おくむらつねや
奥村恒哉
1927年，京都府生。京都大学文学部卒業。
専攻　平安時代文学。
現職　鹿児島県立短期大学教授。
主著　『古今集・後撰集の諸問題』（風間書房），『歌枕』（平凡社選書），『古今和歌集』（校注，新潮社），『古今集の研究』（臨川書店）。

八代集 4〔全 4 巻〕　東洋文庫 490

1988年 8 月22日　初版第 1 刷発行

校注者　奥村恒哉

発行者　下中直也

印刷　株式会社 共立社印刷所
製本　株式会社 石津製本所

発行所　電話編集 03-265-0461　〒102 東京都千代田区三番町5
営業 03-265-0455
振　替 東京8-29639　株式会社　平凡社

© 株式会社 平凡社 1988
Printed in Japan

乱丁・落丁本は直接読者サービス係でお取替え致します（送料小社負担）
定価は外箱に表示してあります

ISBN4-582-80490-X

凡例

一、本書は、国立国会図書館蔵（榊原芳野旧蔵本）『八代集』（全十六冊、正保四年刊）を底本とし、宮内庁書陵部蔵『八代集』（全八冊、室町中期写）、及び北村季吟『八代集抄』（抄本）をも参照した。底本は印刷が鮮明で、無闇な宛て字も少ない穏健な本作りであると思った。

二、全体を四分冊とし、1＝古今和歌集・後撰和歌集、2＝拾遺和歌集・後拾遺和歌集、3＝金葉和歌集・詞花和歌集・千載和歌集、4＝新古今和歌集、を収めた。

三、各勅撰集ごとに国歌大観番号を付した。

四、注には、宮内庁本との異同及び各和歌の他書への重載を示した。注は見開き頁の左端（巻末の場合を除く）に、〔　〕内に歌番号を示して別記した。

五、注に採用した他書の略称とその底本を左に表示する。

注の略称の下の数字は、漢数字＝章・段、漢字のヒラ数字＝歌番号、洋数字＝底本の頁数を示す。

書名	略称	撰著者	成立	数字	底本
万葉集	万		未詳	巻＝歌番号	国歌大観

歌集	秋萩帖	秋	未詳	八九八頃	歌番号	古典文庫
歌集	古今和歌集	古今	紀貫之等	九〇五？	歌番号	国歌大観
歌集	後撰和歌集	後撰	源順等		歌番号	国歌大観
歌集	拾遺和歌集	拾遺	未詳	一〇〇八？	歌番号	国歌大観
歌集	後拾遺和歌集	後拾遺	藤原通俊	一〇八六	歌番号	国歌大観
歌集	金葉和歌集	金葉	源俊頼	一一二六—二七	歌番号	国歌大観
歌集	詞花和歌集	詞花	藤原顕輔	一一五一前後	歌番号	国歌大観
歌集	千載和歌集	千載	藤原俊成	一一六八—八〇	歌番号	国歌大観
歌集	新古今和歌集	新古今	藤原定家等	一二一六？	歌番号	国歌大観
歌集	新勅撰和歌集	新勅撰	藤原定家	一二三五	歌番号	国歌大観
歌集	続後撰和歌集	続後撰	藤原為家	一二五一	歌番号	国歌大観
歌集	続古今和歌集	続古今	藤原為家	一二六五	歌番号	国歌大観
歌集	続拾遺和歌集	続拾遺	藤原為氏	一二七八	歌番号	国歌大観
歌集	新後撰和歌集	新後撰	二条為世	一三〇三	歌番号	国歌大観
歌集	玉葉和歌集	玉葉	京極為兼	一三一三	歌番号	国歌大観
歌集	続千載和歌集	続千載	二条為世	一三二〇	歌番号	国歌大観
歌集	続後拾遺和歌集	続後拾遺	二条為藤等	一三二六？	歌番号	国歌大観
歌集	風雅和歌集	風雅	花園院	一三四九	歌番号	国歌大観
歌集	新千載和歌集	新千載	二条為定	一三五九	歌番号	国歌大観
歌集	新拾遺和歌集	新拾遺	二条為明	一三六四	歌番号	国歌大観

此为试读，需要完整PDF请访问：www.erton

	歌謡				
新後拾遺和歌集	催馬楽	新後拾遺	二条為重	一三八四	歌番号
新続古今和歌集	神楽歌	新続古今	飛鳥井雅世	一四三九	歌番号
	和漢朗詠集	催		八九七—九三〇頃	歌番号
	梁塵秘抄	神	藤原公任	一〇一三?	歌番号
		朗	後白河天皇	一二世紀末	歌番号
		塵			歌番号

	歌物語				
伊勢物語	伊勢物語	伊勢		平安前期	章・段
大和物語	大和物語	大和		九五一	段

	歴史物語				
栄花物語	栄花物語	栄花		一〇九二以降	巻名
大鏡	大鏡	大鏡			巻名
今鏡	今鏡	今鏡		一一七〇	巻名
増鏡	増鏡	増鏡	不詳	一三三三—七六	巻名

	説話集				
今昔物語集	今昔物語集	今昔		一一世紀末	巻—話
宇治拾遺物語	宇治拾遺物語	宇治拾遺		一三世紀前半	巻—話
古今著聞集	古今著聞集	著聞	橘成季	一二五四	巻—話

	歌謡				
国歌大観	国歌大観	小学館 日本古典文学全集 25			
		小学館 日本古典文学全集 25			
		岩波古典文学大系 73			
		小学館 日本古典文学全集 25			

	歌物語				
岩波古典文学大系 9	岩波古典文学大系 9				
岩波古典 9	岩波古典 9				

	歴史物語				
岩波古典文学大系 75 76	岩波古典文学大系 75 76				
岩波古典 21	岩波古典 21				
朝日日本古典全書	朝日日本古典全書				
岩波古典文学大系 87	岩波古典文学大系 87				

	説話集				
国史大系	国史大系				
新潮日本古典集成	新潮日本古典集成				
岩波古典文学大系 84	岩波古典文学大系 84				

随筆	徒	卜部兼好	未詳	段	岩波古典文学大系30
日記					
土佐日記	土佐	紀貫之	九三五	年条	岩波古典文学大系20
かげろふの日記	蜻蛉	藤原道綱母	九七二—六	上・中・下	岩波古典文学大系20
紫式部日記		紫式部	一〇一〇		岩波古典文学大系19
歌学					
古今集教長注	教	藤原教長	一一七七	頁	日本古典全集刊行会
和歌体十種	忠	壬生忠岑	九四五		歌学大系一
新撰髄脳	新髄脳	藤原公任	一〇〇一—〇二？	頁	一
九品和歌	九	藤原公任	一〇〇九以後？	品級	一
俊頼髄脳	俊	源俊頼	一一一五頃	頁	一
奥義抄	奥	藤原清輔	一一三五—四四	頁	一
和歌童蒙抄	童	藤原範兼			
袋草紙	袋	藤原清輔	一一五七—五八	一〇—頁	歌学大系二
古来風体抄	風	藤原俊成	一二〇一	頁	一（十巻のみ）
長明無名抄	無	鴨長明	一二一一—一六	頁	歌学大系二（再撰本）
近代秀歌	近	藤原定家	一二〇九	頁	三
詠歌大概	詠	藤原定家	一二二三以後？	頁	三
毎月抄	毎	藤原定家	一二一九	頁	三
秀歌大体	秀	藤原定家？	一二二六—三一？	頁	三

歌・論	百人一首	百	藤原定家他	一〇八六—八七？	歌学大系三
	難後拾遺抄	難	源経信	一一〇七—	歌学大系別一
	綺語抄	綺	藤原仲実	一一一六	別一
	和歌童蒙抄	童	藤原範兼	一一一八—二七？	別一（一—九）
	袖中抄	袖	顕昭	一一八六—八七？	歌学大系別二
	八雲御抄	八	順徳院	一二三五—四二	歌学大系別三
	古今集注	顕注	顕昭	一一九一	歌学大系別四
	拾遺抄注	注	顕昭	一一八四？	別四
	後拾遺抄注	注	顕昭	一一八三	別四
	詞花集注	注	顕昭	一一八三	別四
	顕注密勘	密	顕昭・定家	一二二一	歌学大系別五
	僻案抄	僻	藤原定家	一二二六	別五
	後撰集正義	正義	藤原為家？	一三〇四頃？	別五

目次

新古今和歌集

新古今和歌集序……五
巻第一　春歌上……一三
巻第二　春歌下……二八
巻第三　夏歌……四〇
巻第四　秋歌上……五六
巻第五　秋歌下……七八
巻第六　冬歌……九五
巻第七　賀歌……一一八
巻第八　哀傷歌……一三六
巻第九　離別歌……一四四
巻第十　羈旅歌……一五一

巻第十一　恋歌一……一六五
巻第十二　恋歌二……一七八
巻第十三　恋歌三……一八八
巻第十四　恋歌四……二〇一
巻第十五　恋歌五……二一六
巻第十六　雑歌上……二三九
巻第十七　雑歌中……二五四
巻第十八　雑歌下……二七〇
巻第十九　神祇歌……二九四
巻第二十　釈教歌……三〇五

解説……奥村恒哉……三二五

古今和歌集・後撰和歌集（本書1）
拾遺和歌集・後拾遺和歌集（本書2）
金葉和歌集・詞花和歌集・千載和歌集（本書3）

八代集初句索引……三九

此为试读，需要完整PDF请访问：www.erton

八代集（はちだいしゅう）

4

奥村恒哉（おくむらつねや）
校注

新古今和歌集

新古今和歌集序

（宮内庁本「権中納言藤原親経卿作」とあり）

夫和歌者。群徳之祖。百福之宗也。玄象天成。五際六情之義未著。素鶩地静。三十一字之詠甫興。爾来源流寔繁。長短雖異。或舒下情而達聞。或宣上徳而致化。或属遊宴而書懐。或採艶色而寄言。誠是理世撫民之（宮内庁本「之」ナシ）鴻徽。賞心楽事之亀鑑者也。是以聖代明時。集而録之。各窮精微。何以漏脱。然猶崑嶺之玉。採之有余。鄧林之材。伐之無尽。物既如此。歌亦宜然。仍詔参議右衛門督源朝臣通具大蔵卿藤原朝臣有家左近衛（宮内庁本「右近衛」）権中将藤原朝臣定家前上総介藤原朝臣家隆左近衛権少将藤原朝臣雅経等。不択貴賤高下。令撫錦句玉章。神明之詞。仏陀之作。為表希夷。雑而同隷。始於曩昔。迄于当時。彼此総編。各俾呈進。毎至玄圃花芳之朝。璞砌風涼之夕。斟難波津之遺流。尋浅香山之芳躅。或吟或詠。抜犀象之牙角。無党無偏。採翡翠之羽毛。裁成而得二千首。類聚而為二十巻。名曰新古今和歌集矣。時令節物之篇。属四序（宮内庁本「属日序」）而星羅。衆作雑詠之什。並群品而雲布。綜緝之致。蓋云備矣。伏惟。来自代邸而践天子之位。謝於漢宮而追汾陽之蹤。

今上陛下之厳親也。雖無隙帝道之(宮内庁本「之」ナシ)諮詢。日域　朝廷之本主也。争不賞我国之習俗。方今荃宰合体。華夷詠仁。風化之楽万春。々日野之草悉靡。月宴之契千秋。々津洲之(宮内庁本「之」ナシ)塵惟(宮内庁本「惟」ナシ)静。誠膺無為有截之時。可頤染毫採牋之志。故撰斯一集。永欲伝百王。彼上古之万葉集者。蓋是和歌之源也。編次之起。因准之儀。星序惟邈。煙欝難披。延喜有古今集。四人含綸命而成之。天暦有後撰集。五人奉絲言而成之。其後有拾遺後拾遺金葉詞華千載等集。雖出於
聖王数代之勅。殊恨為撰者一身之(宮内庁本「之」ナシ)最。因玆。訪延喜天暦二朝之遺美。定法河渉虚五輩之英豪。排神仙之居。展刊修之席而已。斯集之為体也。先抽万葉集之中。更拾七代集之外。深索而微長無遺。広求而片善必挙。但雖張網於山野。微禽自逃。雖連筌於江湖。小群偸漏。誠当視聴之不達。定有篇章猶遺(宮内庁本「篇章之遺」)。今只随採得。且所勒終也。於古今者(宮内庁本「抑於古今者」)不載当代之　御製。自後撰而初加其時之天章。各考一部不満十篇。而今所入之自詠。已余三十首。六義若相兼。一両雖可足。依無風骨之絶妙。還有露詞之多加。偏以耻道之思。不顧多情之眼。凡厥取捨者。嘉尚之余。時運冲襟。伏羲基皇徳而四十万年。異域(宮内庁本「異八域」)自雖観。聖造之書史焉。神武開帝功而八十二代。当朝未聴
　叡策之撰集矣。定知天下之都人士女。謳歌斯道之遇逢矣。不独記仙洞無何之郷。有嘲風哢月之興。亦欲呈皇家元久之歳。有温故知新之(宮内庁本「之」ナシ)心。修撰之趣。不在玆乎。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.erton